

特集

実習は“統合”されているか？

統合実習は本当に“統合”されているだろうか？——

2009年の分析を振り返って 大島弓子

実習を“統合”するための課題 水戸優子

統合実習としての学生によるチームナースング 宮芝智子

夜間実習に統合の視点で取り組む 平塚厚子

臨床現場でチームとして学ぶ統合実習 渥美美保

【実践報告】

充実した在宅看護学実習の実現をめざして(後編)

日本在宅看護教育研究会

【Scramble Zone】

学生&教員 トークセッション・3(最終回)

山根実佳・岡本恭介・若村智子・高塚由香里・堀田佐知子

【連載】

看護に恋した哲学者と読む ベナーがわかる！腑に落ちる・5

榊原哲也

ティーチング・ポートフォリオ作成講座・6 栗田佳代子・吉田壘

NとEとLGBTQ・6 浅沼智也

つくって発見！ 美術解剖学の魅力・9 阿久津裕彦

授業を良くする！ 教育関連理論・11 西野毅朗

編集後記

●「スウェーデンの小学校社会科の教科書を読む(新評論刊)」に書かれた、日本の小学校5、6年にあたる子どもたちが使用する教科書の記述には驚愕させられます。「社会」「メディア」「個人と集団」「経済」「政治」「法律と権利」の6分野の内容が紹介されているのですが、日本では大学生ですら考えたり話したりしたことがあまりないものです。ただ、決して難しいことではありません。●「200年前と今を比較して社会として何が変わったかを調べる」「事実と価値観は違うので、資料は批判的に読む」「家族にはさまざまな形があることを知る」「社会サービスになぜお金がかかるのかを考える」などなど。ぜひこの本を読んで学生とともに考えてみてください。「学生&教員トークセッション」で取り上げた、教養とアクティブ・ラーニングへのアプローチ点が見つかるはずです ……大野

●ある先生の言葉「最近の看護の書籍はマニュアルばかりで嫌になる」がずっと耳に残っています。看護教育でも、マニュアルとはどういふもので、マニュアル化できないものはどう表現されるのか、考えてしまいます。●マニュアルで表現されるものは、一般的にどうすればいいか＝doing(行為)です。今回の特集でも、Qは行為についての問いでした。しかし、先生方のお答えは、たとえ回答自体がdoingであっても、その背景となるbeing(あり方)について書かれていたように思います。うまくお届けできていればうれしいです。 ……番匠

◎編集室ツイッター

<http://twitter.com/KANGOKYOIKU>

看護教育 第59巻 第8号 2018年8月25日発行(毎月1回25日発行)

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2018, Printed in Japan

(1部) 定価：本体2,200円＋税

2018年・年間購読料(増大号を含む12冊)：冊子版15,540円、冊子+電子版/個人18,540円、電子版/個人15,540円(いずれも＋税、送料弊社負担)

発行：株式会社医学書院 代表者：金原 俊 〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 販売部 TEL：03-3817-5659

『看護教育』編集室 TEL：03-3817-5776 メールアドレス：kankyou@igaku-shoin.co.jp 担当：番匠・大野・南部

本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・貸与権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は株式会社医学書院が保有します。本誌を無断で複製する行為(複写、スキャン、デジタルデータ化など)は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学、病院、診療所、企業などにおいて、業務上使用する目的(診療、研究活動を含む)で上記の行為を行うことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。

【JCOPY】〈出版者著作権管理機構 委託出版物〉

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(電話03-3513-6969、FAX03-3513-6979、info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。0047-1895/18/紙：¥500/電子：¥750/論文/JCOPYが本誌の頁表記に並んで記されているのは、1論文1回複製につき紙は500円、電子版は750円を要することを明示したものです。表示のない論文などにも適用されます。JCOPY宛にご連絡いただく際には、筆頭著者名と併せて本表示をご提供くださるようお願いいたします。

『看護教育』は、株式会社医学書院の登録商標です。

Vol.59 No.7

2018 年 7 月
特集

主体性を育む「問いづくり」

現在教育界では、主体的に学ぶ学生を育てるため、さまざまな形でアクティブラーニングが取り入れられています。もともと演習やグループワークの活用が盛んな看護教育ですから、この傾向自体は歓迎すべきものでしょう。ただ、たいていの学生は、「主体的な学び方」が身につけていないので、まず教員が、学生が主体性をもつためのお手伝いをする必要があります。

「問いづくり」は、小中高校の「探求学習」で多く取り入れられている教育技法で、文字通り、学生自らが問いをつくる学習法です。自分が興味をもっていること、知りたいことは何かを考え、それを疑問の形で表したうえで、自分で調べ、まとめ、説明するということまでもっていきます。教員から与えられた問いではなく、自分でつくり出した問いなので、より主体的に学ぶ力が養われます。

教員は、この方法を学び、学生に指導することで、学生の主体性を引き出すことはもちろん、自身が「教える」ということに関し多くの示唆を得ることができます。今回の特集で語られる「問いづくり」に挑戦し、学習における教員自身の主体性にも注目してみてください。

■主体的に学ぶ力を養う「問いづくり」——
QFT (Question Formulation
Technique) の活用……………佐藤広子

■[座談会] 主体的な学生を育てる試みを
—— QFT を体験して学んだこと……………
……佐藤広子／萬田律子／山田かおる／
加藤久美子／佐々木津矢

■学習者の「知りたい」を引き出す——「問
いをつくるスパイラル」から始めるアク
ティブラーニング……………天野由貴

■QFT を知る、学ぶ、使う「ハテナソン・
ワークショップ」から学んだこと……………
……江川美由紀／岩井由美子



Vol.59 No.6

2018 年 6 月
特集

身体拘束から考える 基礎教育と臨床の関係

基礎教育と臨床教育のギャップは、看護教育において長く議論のテーマとされてきました。臨床では、学校で習ったことは通用しない。現場での新人は何もできない、というイメージが形成されている場合すらあります。学校でいくらケアの理念や看護の基本を習ったとしても、就職後は、現場の慣習、仕事の仕方を身につけることが優先される、という関係です。

今、基礎教育と臨床のそのような大きな溝を象徴しているのが、身体拘束ではないでしょうか。身体拘束はケアの理念に反するために、基礎教育で学ぶべき内容とは位置づけられていません。一方、臨床現場においては、多くの病院で身体拘束を最小限にしようとする努力がなされながらも、それぞれの領域の特性、また病院の慣習に従って、まだまだ拘束がなされている現状があります。この現状の違いは、身体拘束を「教わっていない」学生や新人看護師にとっては、リアリティショックの大きな要因とも言われています。

しかし、看護師は学生時代からつながって、看護師になります。看護学生は未来の看護をつくる存在であり、学校で身につける看護への思い、問いは、広く臨床現場全体を変えていくための契機であり、教員にもまた、慣習で行われるケアを問い直す役割があるはずですから。そしてそうでなければ、現場は何も変わらないでしょう。身体拘束という基礎教育と臨床の分断を切り口に、看護、看護教育の問題点を問い直すきっかけになることを願います。

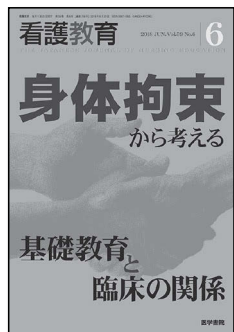
■[インタビュー] 拘束という慣習を乗り越えるために 酒井郁子先生に聞く

■看護師の変遷する拘束像——学生から新人看護師、指導的立場へ……中野真理子

■[座談会] 看護学生にとっての身体拘束——現実、葛藤、希望……石島健資／沖 夏穂／鈴木千晴／猪熊七海／勝間田 麻夏／松本ちなみ／芦田 薫／中野真理子

■身体拘束減少につながる精神看護学の教育とは——都立松沢病院での実習をとおして……………廣川聖子

■学生・教員・病院看護部の協働による Hospital Elder Life Program in St. Luke's (HELP in SL) の取り組み——「人が足りないから拘束する」への問いかけ……………亀井智子



[2018 年 5 月号 (Vol.59 No.5)]

授業にゲームを

[2018 年 4 月号 (Vol.59 No.4)]

問題解決志向に疲れたら……

[2018 年 3 月号 (Vol.59 No.3)]

私たちのストレスケア

[2018 年 2 月号 (Vol.59 No.2)]

VR で未来を変える

[2018 年 1 月号 (Vol.59 No.1)]

インストラクショナル
デザインを活かす

[2017 年 12 月号 (Vol.58 No.12)]

省察的実践者を育む
シヨーンからの提起とともに

バックナンバーのご注文・在庫照会について

- 2016 年 6 月号 (Vol. 57, No. 6) 以前の号は、東亜ブック (TEL.03-5947-4781, FAX 03-3923-4539, <http://www.toabook.com/>)
- 2016 年 7 月号 (Vol. 57, No. 7) 以降の号は、医学書院販売部 (TEL.03-3817-5659) にお願います。